



職業奉仕の理念と実践

『ロータリーの友』顧問 宅間美治雄（下 館）

ロータリーと他の奉仕団体とのちがいは職業奉仕だとしてよくいわれる。一般に人々は奉仕という行為を職業と結びつけて考えてはいない。しかし、ロータリーでは、職業を各人が世につくす機会として神より与えられた天職だと考え、すべての奉仕活動はそこから発するものであり職業奉仕こそが一切の奉仕活動の原点なのだとして私は教えられてきた。

それなのに、ロータリアンの多くは職業奉仕を分かりにくく親しみにくいテーマだと考えている。その理由のひとつは多分、綱領の「職業の道徳的な水準をたかめ、その職務を品位あらしめる」という指導方針の受け止め方にあると思う。毎日を激しい生存競争の中で必死に企業の存続のために働いている人たちにとって利益志向のその事業活動が綱領の教えに反しているのだろうかと思念を抱くロータリアンは少なくないようである。

しかしロータリーは、決して実業人であるロータリアンが利益を求めて活動することに反対してはいないはずである。その活動が最高の正義と道義に支えられたものである限り。むしろ道徳的水準に基づいた活動によって事業の成功を勝ち得ようロータリーは奨励し希望しているのだと私は考えたい。しかし、すべてのロータリアンが常に自分だけの利益という欲念を捨て道徳的水準に従って行動できるであろうか。それこそロータリアンの心の問題でありそのためにも私たちは日夜心の修練に取り組んでいるのである。

そして、その結果回り道のように見えてもそのような行動することが事業成功の近道である

ことを実業人たる身をもって体験し世の人々に実例を示すことがロータリーの真の願いでありかつ、それがロータリーへの理解と発展につながることを私たちに論じているのが綱領の趣旨なんだと私は考える。そのように理解し、そのように実践することを心に誓うならば職業奉仕はロータリアンにとって最も意義あり親しみやすいテーマとなるのではないだろうか。

今は読まれなくなった1915年の倫理訓を何回も読み返して見て私は私共の先輩ロータリアンが同じ問題に悩み苦慮してあの倫理訓をつくり出したであろう情景を想像し深い感動を覚え、いまだに倫理訓を手放すことができない。

つぎに、職業奉仕を親しみにくくしている今ひとつの理由に職業奉仕には他の社会奉仕や国際奉仕などに比べ具体的行動目標が少ないという点がある。しかし、積極的に取り組めば情熱を注ぐに足る行動の場は少なくないと思う。たとえば、企業と環境との問題、雇用難と外国人労働者対策の問題、青少年の進路指導の問題、最近重大化しつつある医業の看護婦不足の問題等々。

職業奉仕は従来ロータリアン各自が職業の実践を通じて世に奉仕するものと考えられてきたが、1987—88年度R I 理事会は、クラブが度々職業奉仕を実践し模範実例を示すことの必要性を強調し、職業宣言はロータリアン各自が自己の職業奉仕上の手腕をささげて青少年や地域社会の生活の質を高めることを求めた。私たちがこれらの要望に応じ、社会のニーズを探りつつ新しい行動目標を開拓しなければいけないだろう。

(1990-91第255地区G)



善循環の輪を広げよう

『ロータリーの友』顧問 大丸 鑑明 (堺 南)

ロータリアンはロータリーを知っていなければなりません。職業奉仕はロータリーの看板といわれ、奉仕の根源ともなる重要な奉仕部門であります。それ故に常に職業奉仕についてよく知り、よく理解するための努力をすべきでありましょう。近年、会員増強に力をそそぐあまり新入会員に対する情報の提供がおろそかになっている傾向があります。ロータリーも時代の変遷に応じて変わるものと、変わらぬものがありますが基本的なロータリーの綱領、奉仕の理想等は変わってはならないものです。自らの職業を通じ品位や道徳的水準を高め社会に奉仕をするという、職業奉仕の基本的な考え方は変わるものではないと思います。

1987年チャールズ・ケラー会長が4大奉仕部門の中で、40年間なおざりにしてきた職業奉仕について見直さなければならないと考えられ委員会が招集されました。87年8月10～12日、エバンストンで開催されT. サージェント委員長と各国から計7人の委員が参画して経済社会の変遷に応じた職業奉仕の見直しをおこないました。その後理事会に答申、審議検討され新しい職業方針が発表され、「職業奉仕に関する声明」を採択しました。

その中で「職業奉仕はクラブと会員の両方の責務である」と従来の職業奉仕は個人とするものとしてきたことに対し、RIはクラブとしての職業奉仕の実践を求めその方策として4つの小委員会(就職相談・職業指導・職業情報・職業活動表彰)の設置、活動を促しております。RIはクラブで行う職業奉仕を奨励しておりま

す。さらに89年シンガポールの規定審議会で「職業宣言」を採択致しました。ロータリーの原則に沿って正しい職業奉仕のあり方を示しております。

多くのロータリアンから、ロータリーで一番難解なのは職業奉仕であるともいわれております。要は個人で、クラブで綱領の第2項を実践することであり、自らの職業を通じて社会に奉仕することです。私はその実践のためには個々のロータリアンが職業奉仕の知識をもち理解し、そして自分の職業奉仕に対する考え方、理念、定義をもっていることが大切であると考えております。『手続要覧』のロータリーの綱領、職業奉仕、職業宣言、四つのテスト、社会奉仕の決議23—34、ロータリーの標語、『ロータリアン必携』等をもう一度勉強致しましょう。

最近のマスコミはバブル経済の崩壊によっての証券不祥事、あきれ果てた巨額の金融犯罪等恐るべき実態が連日報道されております。われわれロータリーは経済的合理性を追求していても他人の人権を無視することは綱領や四つのテスト、職業宣言で罪悪として非難しています。われわれはロータリアンとしての誇りを持ち、謙虚な心で「職業倫理」を特に大切に考え思いやりの心をもって日々奉仕活動に専念すべきでありましょう。職業を通じて社会に奉仕をし、そしてそのことが繁栄をもたらし、善循環の奉仕の輪がさらにひろがってゆく職業奉仕を実践して参りたいと存じます。(1990—91第264地区G)

※印は横組み目次「ロータリー用語早わかり」の欄を参照



R I 職業奉仕委員会委員(アジア)
 古田 敬三(大阪)

奉仕こそわがつとめ

故塚本義隆 P G がすすめたもの

私は1954年大阪 R C に入会しました。大阪 R C は日本でも 2 番目に古いクラブであり、過去に多数の素晴らしいガバナーが輩出されていますが、中でも私が身近で最も薫陶を多く受けたのは故塚本義隆パストガバナーでありました。塚本 P G は生前幾多の著述をしておられ「むつかしくないヴォケーションナルサービス」「そろばんと論語」「ロータリー定礎の 3 人」等々ロータリーについては極めて造詣が深く、常に後輩の指導に当たられました。塚本 P G が新旧いづれの会員にもまずすすめられたのは『奉仕こそわがつとめ』の書を読むことでありました。

「奉仕こそわがつとめである」という見解こそ職業奉仕への最も簡明な説明でありわれわれは単に自分の心に聞けばそれが何を意味しているかがはっきり判る」と書かれています。「職業奉仕とはロータリアンでない他の人々と分かち合うことである」とも書いています。「職業における奉仕というロータリーの考え方を今日程切実に必要とする時代は未だ曾て無かった」ともいっています。

この著述は1946—47年度ホジソン R I 会長とともに R I の委員であったウォッチャースト氏

によって出版されたものでありますが、これが45年前に書かれたものであるとは思えないほど現代の世相に適合した多数の例示を引用しています。『奉仕こそわがつとめ』は、実際の経験に基づいて職業奉仕の意味を知らせ、それによって職業奉仕が決して難しいものではないという理解を、ロータリアンに与えることを試みた書であります。ロータリーの古い会員も新しい会員も、どうかこの『奉仕こそわがつとめ』を一読されることをおすすめ致します。

会員個人とクラブ双方の責任

さて1987年に R I 職業奉仕委員会が40年ぶりに招集され、この答申に基づき1987—88年度の理事会は「職業奉仕が会員個人とクラブ双方の責任である」ことを認める「職業奉仕の新方針」を採択しました。そしてクラブの役割は職業奉仕の模範を示し会員が寄与援助できるプロジェクトを開発する。一方会員の役割はロータリーの基本方針に従って実践し、クラブの開発したプロジェクトにこたえ協力することとクラブと会員両者相まって職業奉仕を単に会員が自己の職業天職を通じて奉仕するばかりでなく外に向かって職業奉仕を実践していく行動の奉仕であるとしました。そしてこの方針の下にクラブ

内に次の小委員会の設置を奨励しているのがあります。1)就職相談 2)職業指導 3)職業情報 4)職業活動表彰

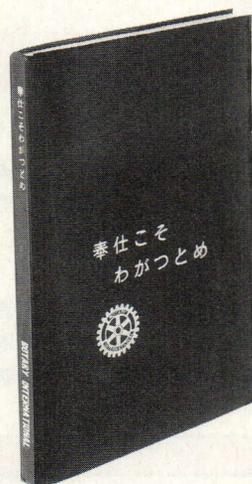
さらに1989年の規定審議会は事業または専門職務に携わるロータリアンの「職業宣言」を採択しロータリーの綱領にうたわれている高い道徳基準を保持するにはいかにすべきかを具体的に明らかにしています。

この「職業奉仕の新方針」ならびに「職業宣言」については前年度R I職業奉仕委員の小谷隆一パストガバナーが当時の第1第3ゾーン30地区のガバナーにアンケートを出されました。その結果を伺いますと「職業奉仕の新方針、についても、職業宣言、についても理解している、関心がある、が大部分ですがいくつかの地区では、理解していない、関心がないという解答があった」とのことです。その主な理由はいずれも「分かりにくい」「教育徹底に時間を要する」ということでありました。

私は、職業奉仕は本質的に、会員個人がその職務を行うに当たって、職業倫理を高揚すべきものであって、クラブ活動はそれら倫理的に高められた個人の集積によって、初めて行われるものであると思います。

印象に残る職業奉仕

いささかおこがましいのですが、ここで私の生涯において最も印象に残っている「職業奉仕」の経験を書かせていただきます。昭和45年3月15日より9月13日まで、大阪府千里丘陵において「日本万国博覧会」が開催され参加国77カ国延べ6,500万人の入場者を得て、大成功裏に終了しました。開催準備は数年前から着々と進められたのですが、会場設営とともに問題となったのは宿泊と交通対策でありました。宿泊については、日本ホテル協会加盟京阪神各ホテルの協力を得て「万国博宿泊対策委員会」を組織し当時大阪ロイヤルホテルの営業責任者であった私が、委員長として取りまとめ、次の申し合わ



この本はロータリー文庫（電話03-3433-6456）にあります。せを取り決めました。

1)期間中は万国博来場者に可能な限り多くの客室を提供する。2)特に外国人にはできるだけ優先して客室を提供する。3)客室料金は前年度(1969年度)の料金を据え置き便乗値上げは一切行わない。この3原則は日本ホテル協会加盟京阪神各ホテルの良心的なご協力を得て、万博開催期間中厳守され、お陰でいささか平素の顧客には迷惑をかけたが、万国博来場内外人からは大変な好評を得ることができ、お陰様で万国博成功の陰の協力者として万国博協会からも深く感謝されたのでした。長らく経済地盤沈下に嘆いていた関西では万国博が地盤かさ上げに大いに貢献したのですが、その裏方あってホテル業者の「適正なる価格、最上のサービス」をもって万国博内外来場者を送迎することのできたことは「職業を通じての奉仕」を身をもって実践したものであり、これこそロータリー精神の職業奉仕であると自負する次第です。

私がガバナーに就任した際、皆様に申し上げたことは「私は奉仕の哲学を説くガバナーではなく、奉仕の愛を知り奉仕を実践するガバナーでありたい」ということでありました。

どうか皆様「思いやりと助け合い」の心をもって「職業を通じて奉仕を実践」されるよう、お祈りしています。(1988—89年度第266地区G)

環境保全に取り組む

—ロータリアンとその企業—

地球規模の環境保全が急務となった今、各企業やロータリアンが取り組んでいる事例を、会員のご投稿と新聞記事をもと

にまとめてみました。14～19ページのアンケート「環境保全と職業奉仕 事例」と合わせてお読み下さい。

わが社の水質汚濁防止

呉 國米 基照

製紙産業にとって水は生命である。王子製紙呉工場では毎日12万トンの工業用水を購入使用しているが、これは30万人都市の生活用水に匹敵する膨大な量で、しかも製造工程で木材中のリグニンを薬品で溶出するので、広島県で最も排水汚濁発生の危険性の高い事業体であろう。それだけに、汚濁防止に日々、並大抵でない努力を傾注している。

水質汚濁防止のために、国の法律（水質汚濁防止法、瀬戸内海環境保全特別措置法）およびそれを受けた広島県条例（いわゆる上乗せ基準を定める条例）によって厳しい規制が定められており、これを踏まえて、広島県・呉市・当工場の3者で公害防止協定を締結している。

水質汚濁防止にかかわる重要な項目は、COD（化学的酸素要求量。汚濁物質を分解するのに要する酸素の量で表示した汚濁物質質量）、SS、PH、その他有害物質などであるが、最重要項目のCODについては、大気汚染防止の重要項目であるSO_x（硫黄酸化物）NO_x（窒素酸化物）と同様に公的機関の常時監視システムが設けられ、1時間ごとに自動測定値が県公害

防止センターに電送されるようになっている。

当工場の水質汚濁防止の現況は次の通り。

(1)クローズド化・溶出したリグニンを多く含む廃液を極力排水に出さないで補集し、蒸発濃縮後、ボイラーで燃焼する。

(2)排水処理設備による浄化

イ) クラリファイヤ（凝集沈殿設備）・排水に凝集剤を注入して、汚濁物質を凝集沈殿させる。

ロ) 活性汚泥設備・好気性微生物（バクテリア）に酸素と栄養剤を与えて、汚濁物質を分解させる。

ハ) 焼却炉・クラリファイヤと活性汚泥設備の沈殿物を脱水、焼却する。

最近話題となった製紙工場排水中のダイオキシン問題も、報道とは異なり日本の対策は欧米より進んでおり、特に当工場は推奨された対策をすべて実施している。

これらの公害防止対策には、当然のことながら、設備費用、薬品・電力等運転費用、操業要員費用を要する。当工場の原価負担額は、排水水質関係で年間10億円にも達する。

当工場はかつて、合併前に反省すべき不幸な出来事を経験した。すなわち昭和45年にパルプかすやチップくずの流出によって沖合いの漁業に悪影響を与えたことがあり、またこの時期に排水口近辺の海底にヘドロが堆積し、後年呉市

がヘドロ^{しゅんせつ}浚渫事業を実施して当工場の責任分として総費用の70%（約4億円）を負担したことがある。このような過去の胸痛む出来事の反省の上に立っての今日である。

国や県の規制はますます厳しくなっているが企業として単に規制を守ればよいとの姿勢でなく、企業の社会的責任を自覚して、産業活動と環境保全の調和、両立に先取りした努力を重ねたい。それが、企業を主導するロータリアンに課せられた大きな責務であろう。

河川浄化の新しい試み

豊川宝飯ロータリークラブ

生活が豊かになり、ゆとりのある生活が確保されるようになって、より快適な生活の場を求める人々が増えている。そして、うるおいのある水辺環境の創造が各地で試みられています。

しかし一方では、都市周辺の中小河川をはじめ生活排水による河川の汚濁も進行しており、この河川汚濁が、新しい水辺環境の創造の中で大きな課題となっています。

愛知県豊川市も例外ではなく、河川汚濁が進行しており、なかには下水臭をはなつ生活排水路や中小河川も見うけられます。そこで手始めに河川に流入する生活排水などによる汚濁の減少を目的とし、豊川宝飯ロータリークラブは、社会奉仕委員会の事業の一環として、豊川市建設部下水道建設事務所のご協力により、5河川（生活排水路）を選定していただき、そのうちの3河川にバイオコード（ひも状接触材）を設

バイオコードを設置するロータリアン



平成3年10月号

置し、生活排水路の直接浄化を行いました。

バイオコードはローブ製造業を営むTBR㈱社長・伴辰三会員が開発した汚水浄化のひも。輪状の小糸体が放射状にあらゆる方向にでている組みひも状の構造物体で、ポリ塩化ビニリデンやポリエチレンを素材にしている。1つの輪状体は数本の細い糸からできており、微生物が付着しやすい構造になっている。

ひも状なので、従来の水処理に使われている硬化性の接触材にくらべて柔軟で設置しやすく狭い暗きよや湾曲部などにも設置が可能。

細菌類、原生動物、微小微生物、藻類など広範囲の微生物を良い環境で増殖させるため、汚水の処理効果が高く、汚泥の発生量が非常に少ないのが特徴。

伴会員の話では、100^{メートル}の長さで28本のローブを張りめぐらすと、そのうちに約3トンのバクテリアが付着し、これを川が持つ自然浄化作用に換算すると、延長約10キロ分の川に相当する働きをするという。

豊川宝飯クラブでは、さきごろ、市内3カ所の河川で会員ら約40人が参加、まず、水路のゴミを拾い集めた後、直径約4センチのローブを約10センチ間隔に敷きつめ、アンカーボルトで固定した。さらにバイオコード設置による生活排水浄化事業を地域住民に理解し協力してもらうため説明看板も設置した。

水源の確保に努力

本宮 伊藤 丈夫

「本宮町が今日、おいしい水を安心して飲めるのは西沢先生のお陰です」という呼びかけで、さきごろ、本宮RC主催で、西沢信会員の労作『本宮の水』の出版記念祝賀会を行った。出席者は町長はじめ役場職員、議員諸氏、婦人団体メンバー、郡山市長ら近隣の公害に深い関心を持つ人たちが多数。県知事やガバナー、PGから多くの祝電も寄せられ有意義な会となった。

十数年前に発生した食肉流通センター建設問題（豚1日1000頭の屠殺）は、地元、石筵川流

域住民と下流の水を飲む本宮町に激しい反対運動を起こさせたが、その解決の理論的根拠となったのが「西沢レポート」でした。そして同レポートの誕生に協力した当RC会員や故人となられた先輩会員を忘れることはできない。

その詳細を記したのが『本宮の水』で、本書が血で血を洗うような反対運動となった原因を理路整然と分析し、不安な点を摘出し、そして相手の立場も考慮しながら自己の主張を貫いていかれるさまは、まさに公害問題解決のマニュアルともいえると思われる。

西沢先生は5年前まで東北歯科大学（奥羽大学）の化学の教授兼大学理事として教壇に立ち、ご退職後は当地で晴耕雨読、悠々たるシニアアクティブ、PHFのロータリアンで82歳。席上、さらにもう1つの公害問題解決に活動されていることが発表された。

それは西沢先生が率先して本宮町のもう1つの水源・七瀬川の沿岸地帯を探索され、町長の強力な推薦の下、役場職員と協力して、いくつかのゴルフ場に適切な改善指導をしておられたことでした。先生は一般ゴルフ場の農薬の使用状況を調べ、果樹園や水田での現状も比較検討し、1つの解決策を案出されたのである。

その方法は、農薬の最も濃厚に散布されるグリーンとティーグラウンド（面積は全体の5%以下、農薬使用量は全体の60~70%）だけの排水を集めて山上の池にポンプアップし、そこで池水を還流曝気して農薬を分解させた後、さらにゴルフ場全般に散水し、土壌中のバクテリアその他によって分解を完結させようという新しいクローズドシステムでした。

先生はこのシステムを厚生省、環境庁そして農水省の専門家を訪問、報告して、安全性を確認しておられる。そして先生はこのシステムに自信をもってゴルフ場建築主と交渉し、設計改造または新しい公害防止協定の締結と積極的な活動を展開しておられるのです。

公害防止と環境保全は今や全人類の悲願となった。本宮町でも、この問題に取り組んでこられた西沢先生を中心として、医療関係者、その他の有識者（ロータリアンも参加）による「水源環境保全委員会」を発足させている。

わが社の大気汚染防止

呉 伊藤 邦宏

当社（日新製鉄呉製鉄所）は昭和26年に呉海軍工廠跡地で操業を開始したが、当時は溶鉱炉はなく平炉という昔の製鋼設備を動かしていた。

そのころ煙は公害という概念は薄く、産業構造の近代化、重化学工業を主体とした戦後の復興に力を注いだ時期で、むしろ煙のある方が活気があっていいといった世間の評価があった。

昭和37年に中国地方では初めての溶鉱炉を呉に建設したが、高炉による製鉄業は鉄鉱石やコークスからの粉じんの発生および燃料多消費型の企業であるとの認識から「大気汚染型」の業種とみられてきています。

昭和37年には現在の「大気汚染防止法」の前身となる「煤煙の排出の規制等に関する法律」が公布され、当社も規制値を先取りする形で大型の公害防止設備の新設投資を開始し、昭和38年に他社に先駆けて平炉設備に三菱重工初の電気集じん機を設置し、公害防止の先べんをきった。

昭和42年には旧焼結設備の煙突の高さを60^{メートル}から120^{メートル}にするなど52年までの環境対策設備の投資額は140億円におよび、現在までの累計投資額は約400億円、今現在年間のランニング費用は84億円をかけています。この間、昭和42年には「公害対策基本法」が公布され「公害」の定義が明確になり、昭和43年公布の大気汚染防止法の遵守、昭和46年の県・市との公害防止協定の締結を通じ、技術的に可能な限りの公害対策を実施してきました。

環境対策を時系列的に見ますと、40年までは「対処療法時代」であり、大気汚染による社会問題が発生の都度、対策を自主的にやっています。41年から51年にかけては「公害設備の強化時代」であり、主要な設備を中心に公害防止設備に対して積極的に莫大な投資を実施しています。52年から60年にかけては「事前予防時代」であり、粉じん拡散予測、海域汚染予測、SOx発生予測計算など環境アセスメントの手法を導入し、将来の規制値を加味した公害対策を前向

きに実施しています。

そして現在は「アメニティ対応時代」として酸性雨に代表される地球環境問題、空き缶、プラスチックなどの廃棄物処理問題、環境汚染が世界全般にかかわる身近な問題となっており法や規制値をクリアすることは当然で、住民の立場になり「感情的な基準」を守っていく企業姿勢が評価される時代になってきています。

粉じんの拡散情報を正確につかみ、精度の高い対策を実施するため、工場周辺に12カ所、工場内を含めると60カ所の測定局を設置し観測を続けていますが、昭和50年に比較し、生産量が14%増加したにもかかわらず、粉じんの量は40%から45%減少しています。また目がチカチカする原因となっている夏場に多いオキシダントの発生はその大半は自動車の排気ガスに原因が

あるといわれていますが、県から発生の情報をえたとき、場合によっては自主的に当社も設備の一部を休止して協力しています。そして現在工場周辺の民家に対して少しでも粉じん迷惑を掛けないように鉄鉱石のヤードに従来から実施している散水に加え、風力減用のネットをテスト的に設置してその効果を測定中です。また工場隣接地に市から土地を購入し、幅100^{メートル}、長さ300^{メートル}、高さ20^{メートル}の築山を建設し、騒音防止、粉じん飛散防止を図るとともに市民の憩いの場を作るべくすでに工事中です。

会社の存在意義は社会に貢献し、雇用を確保し、その上で収益を上げ、応分の税金を負担することにあると考え、地域社会の支援なしでは持続的な生産活動はありえないのだという哲学のもとに企業活動を続けています。

わが国初の太陽エネルギー利用発電システムを採用

昨年、甲府市に全国で初めての太陽電池を電源にしたガソリンスタンドがオープンし、クリーンエネルギー、代替エネルギーの利用として注目されている。新聞記事および資源エネルギー庁の資料をもとにまとめてみました。

石油販売業を営む高野孫左エ門PG（甲府RC）では、昨年2月にオープンさせたガソリンスタンド（SS＝サービスステーション）の屋根に太陽電池パネル196枚（総出力10.4^{キロワット}）を取りつけ、同SSで使用する動力計、POS（販売時点管理システム）、パソコンなどの電源を賄う「太陽エネルギー利用発電システム」の実用化を図った。電源は太陽光と熱電併給と買電（商用電力）の3本立て。

3月には、石油の代替エネルギーの開発を進めている通産省から、国内第1号の「地域エネルギー開発利用発電モデル事業」制度の指定を受けた。

採算点に達していない太陽電池の導入は環境問題と資源の枯渇を考え、クリーンな代替エネルギーへの火つけ役として、今後の対策にも弾みがつくようデータを収集し、さらなる技術開

発に役立てるため、通産省や業者に、そのデータを還元していく方針とのこと。

なお、昨年4月から本年3月までの発電実績は当初試算の87.1%のデータを示し、これは灯油量換算で年間約2,000^{リットル}の節約に当たり、実用化のメドが得られたと報じられている。



屋根に太陽電池パネルが並ぶガソリンスタンド

環境保全と職業奉仕 事例

前ページにご紹介したほかに、環境保全関連の職業奉仕の事例を全国から集めてみました。前年度の『友』地区委員とガバナー事務所にお集めいただいたものです。なおクラブで実施した

ものは社会奉仕活動とも考えられますが、環境保全関連ということで、一緒に掲載しました。なおまた紙のリサイクル、植樹そのほか重複する活動は省略しました。

養殖魚介類の育成に沿岸植林

第2500地区

(1) サロマ湖（海水湖）の養殖魚介類の育成と沿岸森林は密接に関連している。山林64ヘクタールを購入し、漁業協同組合員総出で植林などを行っている。

(2) 帆立貝から出る中腸線（通称ウロ）は私有地に埋設処理していたが環境保全等から燃焼処理することになった。

（猪口徳男君・佐呂間RC）

スタッドレスタイヤで事故減少

第2510地区

(1) 圧縮貯留機2台を一般ゴミ用、生ゴミ用に分け、一般ゴミは熱供給会社の燃料として再利用。

(2) コージェネ発電機を使い電力と排熱を回収し排熱を給湯、冬季のロードヒーティングに利用、一次エネルギー約20%節約。

（細田實君・札幌）

車粉の防止をと自家用・社用車とも三冬前よりスタッドレスタイヤで通す。営業車、工事用車とも三冬前からスパイクを全廃したところ事故はかえって減少した。要は十分な注意を。

（森松定男君・札幌南）

火力プラントの脱水機からでる泥水によるト

ラブルをなくすエアポンプ回収法を開発、定常槽等のかくはん動力費の削減などで年間370万円（全費用の24%）の低減効果が得られた。

（大嶋抱廉・伊達）

1月5日の初会合で全員参加のNO CAR DAYとした。車での来場は1人もなく公共の乗り物で来場。（新札幌）

第2530地区

機密文書回収クリーンBOXを各事業所に配備し、現金輸送車なみの機密の漏れない方法で製紙会社へ。溶解証明書を発行してもらう。

（紺野嘉昭君・福島北）

第2800地区

果物缶詰製造の際、有機質汚染水がでる。プラント管理会社と協力して独特の汚染水排除装置をつくり、自信をもって最上川に排水している。（中里二三雄君・寒河江）

自動車エアコンのR12フロンガスの回収再利用のための冷媒回収機を設置し、ガスを大気圏に放出しないようにしている。（大竹正君・寒河江）

ゴミ箱を可燃物、不可燃物、再生可、再生不可の4種類設け、リサイクルに利用。1度使った水をろ過して2～3回使用。（松村英弥君・天童）

第2540地区

(1)インターアクトの生徒を自分の農場に招いて、自然の恵みの大切さを教える。(2)スパイクタイヤをソ連に無償提供。(3)放射性廃棄物の危険性を訴える。(4)ネオン、マイカー自粛、社員の手相乗り。(5)医療廃棄物の処理の徹底。

不燃建材に石綿を使わない製法

第2550地区

(1)不燃建材に石綿(アスベスト)を使わない製法を確立した。(2)鉄鋼業から大量に(年間3500万t)排出のスラグ、排煙脱硫石こう等の廃棄物を、窯業系の材料に対する知識、技術を生かし利用することに成功した。(横溝正夫君・鹿島臨海)

プラスチック廃棄物の処理、再資源化対策として「プラスチック・エコシステム委員会」を設置し取り組んでいる。(山本疆君・波崎)

牛乳パックとトイレトペーパーの交換

第2570地区

アスファルト、コンクリートの処理で、再生プラントへ搬入し、砕石化して利用。(石井幸良君・日高)

市で廃棄処分する予定の放置自転車を無償譲与していただき、再生した自転車を中国帰国孤児定着促進センターへ寄贈したいと市へお願いしている。(志木)

中間処分場として、焼却できない物は選別し生きる物はリサイクルに回している。ただし隣地の同意が得られないで、処分場が増えない。これからは先端技術を導入して、2次公害を起こさないようにしたい。(吉田博三君・熊谷東)

主婦の提言で牛乳パックの回収を始めた。パック内をよく洗い、切り開いて乾燥させ、1ℓ用は30枚、500mlなら45枚を束ね持参願ひ、自費でトイレトペーパーロールを差し上げている。古紙業者に頼み製紙会社へ送るが相当量まとまらないと、コスト割れは大きくなる。(佐川茂君・皆野長瀬)

地区大会場周辺で苗木寄贈

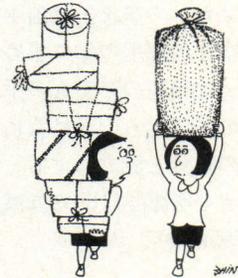
第2770地区

平成3年10月号

シリーズ③ 地球を守る

容器・包装ゴミ減らそう

家庭ゴミを分類すると、容器・包装材が6%。台所の生ゴミは13%。容器・包装材の形状は、空き箱が約半分、硬が4分の1、残りが包装紙類となっている。材質別ではプラスチック(37%)と紙(34%)で3分の2以上だ。いま消費者団体の白書案は、「ハラ売りを減らそう」「ポリ袋を繰り返し使おう」「買い物袋を持ち歩こう」の3つ。



資源を大切にしよう

福島東ロータリークラブ

去る3月の地区大会会場に、緑化樹3種類の苗木4,000本を運び、会場周辺で市民に無料贈呈した。(豊田秀夫君・川口むさし野)

第2580地区

消費者、行政と連動した牛乳パックの回収。消費者、メーカーと連動したプラスチックトレイの回収。(奥泉務君・東京練馬西)

配送などに使用のディーゼル車からのNOXが多く、環境を悪化させるので、再びガソリン車に戻した。(梶原徳二君・東京小石川)

古紙使用商品表示のグリーンマークを集めて苗木と交換する——この運動の普及に努めている。(東京荒川)

医療廃棄物は、高性能焼却炉で処理。(神谷恒夫・東京王子)

(1)地球環境問題連絡会を設立、生分解プラスチックの研究開発、家庭用合併浄化槽の開発等を進める。(2)環境問題に対する行動指針を確立(三東崇宏・東京王子)

過剰包装について、(1)正味(中身)と包装を別料金にする。(2)買い物カゴ、フロシキ等の普及の2点に重点を置き、①板橋区商店街連合会の幹部と会合、②板橋区内のローカル3紙と昼食会、③板橋区役所担当と協議の申し入れ、④購買者に商店を通しステッカー、チラシを配布の予定。(東京板橋)

(郵便)封筒の2回使用。(池田光夫君 下坂安房君・東京東)

建設工事による廃棄物は、(1)段ボールはリサイクル業者へ、(2)可燃物は場内の焼却場へ、(3)不燃物は4カ所のコンテナに集め、回収業者へ、(4)ジュースなどの空き缶は缶1本びつたりの穴を開け、空き缶専用の箱に集め、毎週1回近くの小学校・幼稚園のPTAの手で分別され、収益は地域の子供たちの教材費になる。成否は作業員全員の自覚と協力による。現場のルールとして定着させ廃棄物は30%低減された。(河野彰君・東京清瀬)

移動教室で巣箱づくり

第2750地区

アニメーション映画製作に当たって、(1)1度使用した絵(セルロイド、背景画など)をバンクしておき、再使用する。(2)作品の質的内容を落とさず、演出によって作画枚数を最少限におさえる。以上によって廃棄物を少なくしている。(村田英憲君・東京世田谷)

業界に呼びかけ、都木材連合会が移動教室で子供たちに巣箱づくりを教え、木と鳥を愛する心を育てるようにしている。(田中昭太郎君・東京世田谷南)

第2590地区

売り場でポリ袋を、生物分解可能のものにした。ビニール傘袋を中止した。(平井圭左君・横浜港南)

海上油濁防止事業の経営(上野孝君・横浜)

廃棄物の資源化、(1)排ガス中の微粒子除去の電気集塵材よりセメントの原料製造。排水処理工程の油分回収工程より、セメントの原料製造。(秋田昌宏君・横浜)

(2)アスファルト合材プラント。道路を削ったものを砕いて新しい合材に利用。(松木俊武君・横浜)

生活雑排水三次処理、アルカリ排水の中和処理。(加藤三郎君・横浜保土ヶ谷)

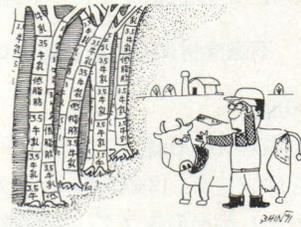
第2780地区

第3、4分区で「職業奉仕で地球環境に貢献

シリーズ4 地球を守ろう

牛乳パック、年に32億個

牛乳パック1,600個で20-30年の成木(高さ8メートル、直径1センチ)1本が必要。日本の年間生産量は約32億個だから、成木213万本が使われる計算。リサイクルすれば、パック30個でトイレトーパー2個(しんなし150メートル)に生まれ変わる。これは大人1人の使用量の1ヶ月半分。



「木が牛乳パックに見える……」

資源を大切にしよう!

福島東ロータリークラブ

」をテーマにIMを開催。伊藤忠商事地球環境室長が「地球環境問題と企業の対応について」講演。誠によく準備され、具体的な提言を含み、一企業が真剣に環境問題について考えていることが分かり喫驚した。(西口雅彦君・藤沢北西)

あん殻で漬物のもと

第2790地区

ビール製造過程で発生する炭酸ガスはビールじゆうてんの充填、炭酸飲料水に再利用している。(角谷隆君・千葉)

駅に空き缶回収機を設置し、スチールとアルミに選別し、分別回収に役立っている。(鈴木一彦君・千葉)

太陽集熱機(ソーラー)の採用によってボイラー使用燃料(重油・石油)を節約し、大気汚染の減少に努めている。(石渡平君・新千葉)

しょうゆ粕かすは家畜飼料に、しょうゆ油は工業用途に利用されていた。近年利用されなくなったので専用焼却ボイラーを導入して熱源として利用、重油の消費量を大幅に減らした。(茂木新七君、池永靖君・銚子)

和菓子のあんをつくる際あん殻がでる。牛の飼料に使われなくなったので研究し「浅漬の素」をつくった。野菜を数分間この液に漬けるだけで漬物ができる。(諸岡孝昭君・成田)

配水管の口径をすべて1/2化

第2760地区

都市ゴミを処理して、燃料とコンポストをつくり出す技術の開発。(田中義彦君・豊橋)

古い白衣は裁断して、マクラカバーなどに使用。(大島照夫君・豊橋)

冷蔵庫の循環水をトイレ、冷却塔に再使用している。(林一郎君・豊橋)

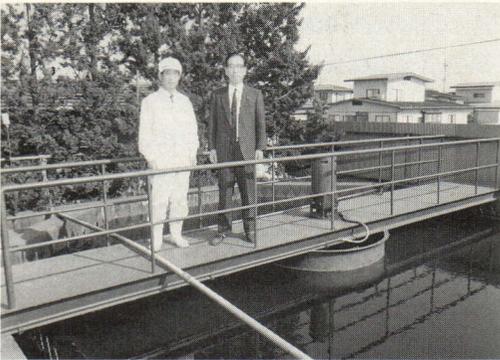
営業車、自家用車約800台。停車など、時間待ち車両のエンジン停止の励行。(石川和昌君・豊橋)

配水管の口径をすべて $\frac{1}{2}$ 化することを推進。

(佐藤脩次君・豊橋)

(1)小便器のハイタンク方式から自動感應方式押しボタン方式へ変更。(2)女子用トイレの一部に擬音装置を取り付け、水のカラ流しを防止。

(山田敏夫君・豊橋)



独特の汚染水排除装置をつくり排水。中里二三雄君・寒河江(2800地区)

第2610地区

(1)機械加工後の切粉はサビつかないように、油が流れないように室内保管し、再生メーカーに出している。(2)入荷時の太枠など町内の左義長(1月15日)に燃やすため保管している。

(釣俊治君・砺波)

ガソリンスタンドとコンビニエンスからでる空き缶を、缶つぶし機でつぶして回収屋に引き取ってもらう。(小竹三郎君・砺波)

売り場内に「地球を守るエコマーク商品」の陳列と解説コーナーを常設。(山田耕之助君・金沢)

中米の土地を購入し森林保護

第2620地区

中米ベリーズ、モンキーベイの土地を1ヘクタール購入してクラブのものとし、森林を保護している。(上野原)

ノーカーデーの実施。(甲府)

高校生からポスター、標語、感想文を募集し優秀作品の表彰。PRに資する。(浜松中)

遠州浜の海亀の産卵を保護。(浜松南)

第2630地区

(1)ビニール、プラスチック、ウェスなども焼却できる焼却炉に更新、産業廃棄物捨場への量を縮小。(2)ノロ、鋳物廃砂をセメント原料として再利用。(島田均君・桑名)

蛍の生息地、席田川の清掃例会を毎年4月上旬実施。(本巢)

タイル製造の際の汚泥、汚水を分離し、土はプレスして町のゴミ捨場へ、水はきれいに川へ流す。(各務功一君・土岐)

廃タイヤをもらい、焼却し、その熱で給湯、暖房に、栽培ハウスで花、木を育て、社内の美化に。(鈴木啓之君・土岐中央)

給食センター、ホテル、レストランなどの廃油を回収し、ろ過・精製の上、油脂メーカーへ。(酒井善生君・可見)

買い物袋の持参を呼びかけ、店の買い物袋を使わない人にはスタンプを用紙に押し、数が集まれば割引券を発行している。(梅本斉君・津)(梅本順三君・津南)

(1)牛乳の空パック30枚と1ℓ牛乳の引換券を交換している。(2)トレイ30枚を持ってくれば、1回のスタンプを押し、15回になればトイレットペーパー12ロール1袋を進呈している。(清水明君・伊勢南)

(1)ガラス研磨による汚泥は回収設備で回収し、ガラス原料として再利用する。粒子が細かく回収できないものは、沈殿池で汚泥とし天日乾燥させ最終処分場へ投棄する。(2)廃油は、D/E用C重油のスラッジ、研磨機の作動油、潤滑油などから発生するが、炉筒煙管ポイラー(3基)の燃料として再利用する。(田中一如)

君・松阪東)

道路修繕工事に伴うアスファルト、セメントコンクリートなどの廃材、古い建築物の取り壊しによる鉄筋コンクリートの廃材はぼう大な量である。リサイクルプラントを設置し、不足している砂利資源として有効利用している。(秦三生君・四日市)

感染性医療廃棄物を選別し、保健所の許可を取った独自のシステムで医師会館内に一括収集。許可業者によって処理施設に運搬処分している。かなりの費用負担となるが、医師会一運搬業者一処理業者と3者のマニフェスト(受け渡し証明)を発行する完全なシステムで先進の事業である。(西村昭正君ほか・四日市)

「自然を汚さない」「自然の素材を有効に使います」「リサイクル」「詰め替え」をコンセプトに環境保全商品の開発を進め、90年度で83アイテム、91年度は110アイテムを目標にしている。「環境保全商品コーナー」で販売している。(山岸和夫君・四日市)

かわいい巣箱を600個



巣箱600個を学校などに配布。西瀬一彦君・御坊(2640地区)

第2640地区

小鳥たちといつまでも同居できる環境づくりと、子供たちに生き物を愛し、また友達を大切にすることをはぐくんでもらおうと、仕事の合間をみては従業員と一緒に巣箱600個をつくった。新聞社の協力で御坊、日高管内の幼稚園、保育園、小、中、高校等の希望校に配付した。(西瀬一彦君・御坊)

感染性廃棄物で注射針などの鋭利なものは、耐貫通性のある丈夫な容器に入れ、業者に処分

してもらおう。レントゲン現像後の現像液も下水道に流さず、容器にため業者に処分してもらおう。(天城昭君・富田林)

第2650地区

環境保全に取り組む「私の約束」を公約し、各自が身近で具体的な目標を掲げ実行している。(宮津)

社員の机の下にゴミ箱とは別に「古紙回収用の紙袋」を置いたところ、連日いっぱいとなり、業者に回収してもらっている。(山田将貴君・京都桂川)

高品位の100%再生紙を開発

第2660地区

地区大会決議第4号(注)に基づき、第1例会をノーカーデーに指定。(東大阪東)

また大阪府提唱の毎月20日のノーカーデーを順守。(大阪東)

注 地区大会決議第4号 違法駐車が交通渋滞を招き環境破壊の遠因となっていることを思い、地域社会の職業代表人として職業倫理の高揚を掲げるロータリアンは、その先達として会員および会員の所属する団体や企業のマイカー通勤や業務用車持ち帰りを自粛することを提唱し推進することによって、この難問解決に挑戦することを決議する。

ほかの2社と共同で高品位のコンピューター用再生紙「ホワイトリサイクルフォーム」を開発した。事業所から出る上質古紙のみを使用して抄造しており、バージンパルプ100%の上質紙と同程度の白色度と強度を有し、紙粉発生や対光性についても問題はない。一般的に再生紙は10%ほど価格が上昇するが、価格を上質紙と同程度に抑えることに成功した。(朝日徹夫君・大阪西南)

第2670地区

食品部門で、(1)製造行程より発生する可食部分は家畜の飼料にする。(2)汚水は浄化槽で20PPM以下に浄化した水にして放流。(3)浄化槽に沈殿する汚泥は脱水してオガクズ等と混ぜ、発

酵させてたい肥とする。(4)石油化学製品(ポリ袋等)については、再資源化できないため焼却処分。(則久芳郎君・観音寺)

売り場で買い物袋の再利用を勧めている。(豊田副之君・東予)

第2680地区

医院の待合室、全職域を、禁煙にしている。(伊吹薫君・尼崎南)

(1)各室に「古新聞」「雑誌」「コピー用紙」などの箱を置き分類投入し、月末に尼崎市身体障害者自立業所に回収していただいている。(2)職場周辺のアルミ缶、スチール缶を分類して上記と同様の処理をしている。(竹本真佐太郎君・尼崎南)

焼却炉を廃止し、ゴミを専門業者回収にしている。(亀山清君・尼崎南)

古紙による紙再生の状況を知るために、板紙メーカーの職場訪問を実施中。(尼崎西)

カーエアコン用フロンガスの回収、再利用により大気汚染拡散防止。(瀧川泰久君・姫路)



冷媒回収機でフロンガスを大気圏に放出しない。大竹正君・寒河江(2800地区)

第2690地区

米子・境港・米子東・米子南は、共同で環境問題の標語を募集した。64校の小学6年生から寄せられ、最優秀作品は「オゾン層 地球を守る かけぶとん」。

児童による巣箱づくりコンテスト

第2710地区

(1)町の「野鳥の森公園」に敷地を提供し、観察小屋、給餌台、遊歩道を設置。(2)8回目の児

童による巣箱づくりコンテスト実施。(松永繁喜君・広島東)

牛乳パックを回収して再生紙のハガキを作成販売。収益金を施設「大田川学園」に寄贈。(市川順一君・広島東)

発泡スチロール・トレイの回収(有料)とリサイクル。(栗原茂・福山南 野村博之・三次) 自動車部品輸出に使い捨て木箱から、折り畳み式の反復容器に切り替え。(大森茂夫・広島東)

床清掃作業で、洗剤を使わないパーフェクト・ドライ・システム工法を發明。(小野英輔・徳山西)

使用済みコピー紙をシュレッダーにかけ、荷造り緩衝材として使用。(倉本好文・広島東)

第2730地区

(1)輸入原木量を意図的に削減し、現在はピーク時の50%に減少。(2)設備化、技術化を図り、用材、チップ、加工木材、ダスト利用など、原木100%利用化を推進中。(3)伐採跡地の植林化。(宇都巖君・鹿児島東南)

毎朝、道路清掃、排水、除草を8年間続け通勤者、小中高の通学生にあいさつを繰り返すうちに相手からもあいさつが返るようになった。(柏田良丸君・都城北)

照明をこまめに切ることを励行。冷暖房、20~28度を徹底。(今林重夫君・指宿)

自動車整備業事業所では専用洗剤ではなく、粉石けんと米ぬかを自分で混合したものを使用。(坂口澄明君・串木野)

自動車整備事業で、エンジンオイルのほか廃油は回収用タンクで回収し、専門業者に処理を依頼中。(山元康行君・志布志)

焼酎製造で原料の^{しょうちゆう}とぎ汁はBOD6000~6500 PPMある分を曝気処理し、6~7 PPMにして天降川に排出している。(佐藤学君・霧島)

カークーラー修理の際、フロンガスを空中に放出しないでガスを抜き、修理後ガスを補完する機械を購入した。(山崎郁夫君・延岡中央)

建設廃材を合法的に埋め立て、最終処分を行うため、数人で組合をつくった。(熊田原正一君・日南中央)